

中田 豪之助 議員



## 省力化に対する補助制度の考えは

町長 暮らしも支えていけるような議論も  
していきたい

今後4年間の町政執行

**質問** 現役農家に少しでも長く続けてもらうための方策は。

**町長** 農業振興基本条例に基づきハウス増設、ホワイトアスパラ振興、秀品率向上対策、酪農ヘルパーなどを継続的に推進。国・道の補助事業を活用し、畜産クラスター事業や道営草地畜産基盤整備事業を実施、積極的な支援を進めている。

**再質問** そのような施策は効果を挙げ助かっている。もう少し老人に優しいような省力化、耕種農家にヘルパー制度やビニールハウスの自動巻き上げに対する補助の考えは。

**町長** 小規模生産者をどう支援するか。少しでも営農が続けられる方法論、高齢者の方々にどのような次の生活の環境をつくるか、町はどう支援できるか、これ

らが議論されてくると非常に次の制度へ向けての反映がある。暮らしも支えていけるような議論もしていきたい。

**再質問** 高齢の農家、小農、そういう方は、貴重な歴史を知っていて経験豊か、そのノウハウの塊のような有り難い方は、地域に残っていただく必要がある。買い物支援、健康の見守り等、総合的に考えれば、自分の家に住み続けられるのではないか。引いては町からの流出を少なくできるのでは。トータルで考えていく必要がある。それらをどの部署で進めていくのか。

**町長** 生活環境の中では、公区行政も含め税務住民課、農政としては農務課が支援体制をつくっている。状況を把握しながら、制度として相応しいかどうか、審議会も含めて、協議の場で議論をしていく。

**再質問** 本町農業では酪農が域外からの資金獲得に大きく貢献している。今、消化液の活用が問題になっている。先駆的な取組をし続ける下川町としては、研究所、大学などと将来の技術、素材の開発などに投資する取組というのをSDGs予算などで進めてはどうか。消化液をフルーツマトの液体肥料に転換できれば、資金の域外流出も減らせる。そういう考えはないか。

**町長** 良い提案をいただいた。農業振興、農業施策については、スマート農業も含め議論がされている。先進的な地域もあり、情報収集をしながら今後も取り組んでいく。

**質問** プライマリーバランスの黒字化を具体的にどう進めるのか。

**町長** ①歳入の安定的確保と適正化として使用料等に

ついて、受益者負担の原則に立ち、適正化を検討。②「歳出構造の見直し」として、統廃合も含めた事業の見直しを推進。③「公共施設の管理運営と最適化」として、公共施設全体の再配置を検討する。

**再質問** 新年度予算等策定時に、前年度の98%など、規制の枠は付けたか。

**副町長** 歳出の見直しの部分では、経常経費の5%削減、補助金等は、3年間で10%削減を目指す指示を出し、それに基づいて骨格予算を編成。各団体等との協議を進めながら各課予算計上した。

**再質問** 公共施設等総合管理計画というものは、町民に公開されているか。

**副町長** いつでも見ることはできるので、対応させていただきます。